



「今日、聖書のこの御言葉が、あなた方が聞いた通り実現しました。」

真剣なクリスチャンなら誰でも世の終わりが近づいていて、われわれの親愛なる主イエス様はもうすぐ空中で御自分の花嫁とお会いになるのを知っています（テサ 4:16,17）。しかし多くの人にはバプテスマのヨハネが主の第一回の到来を予告したと同じように、あるエリヤの霊を持つ預言者がキリストの第二回の到来を予告することになっているのを知りません。もちろん、いまでも多くの偽の預言者が人々を惑わしています（マタイ 20:11, 24）。しかし偽の預言者が現れると言われた同じ神様が、一人の真の預言者が来るとも言われました。

一方、神様の御言葉はすでに捻じ曲げられ、時がたつに連れて失われてきました。いま世の中では 900 もの宗派があり、それぞれが自分こそ真理を持っていると言い張っているが、皆神様の御言葉やほかの宗派と矛盾しています。もちろん、彼らは皆正しくなく、このような混乱は神様に由来するものではありません。なぜなら聖書にははっきりと私たちに神様は混乱の神ではないと書かれたからです（1 コリント

14:33）。しかも神様はこの世の終わりで自分の御言葉を復興されるのにいかなる宗教や人、もしくは議会をも使われるつもりはなく、世の終わりに来るエリヤの伝道事業によって自分の御言葉を復興されるのです（アモス 3:7、マタイ 17:11）。

マラキ書第 4 章で世の終わりが書かれたところで、神様はこう言われました、「見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

次に載せる聖書の言葉は、一緒に読まれることによって、神様が主イエス・キリストの第二回目の到来を告げる預言者を遣わすつもりでおられることを証明しています。

アモス 3 : 7

「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」

これは神様のお決まりのパターンで、どこへ行っても変わりません。重大な聖書の出来事の前にも、必ず神様が預言者に告げられていることが分かるでしょう。例えば、洪水の前に遣われたノア、ソドムとゴモラの炎上の前のアブラハム、イスラエルに遣わされたモーゼ、キリストの第一回目の降臨の前に遣わされたバプテスマのヨハネ、異邦人に遣わされたパウロ、黙示録 11 章にあるユダヤ人のところに遣わされた二人の証人などなどです。

マラキ 4 : 5 - 6

「見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

ここでのエリヤの霊は主の日に先立つと予言されました。聖書を学んでおられる人ならだれでも主の大いなる恐ろしい日とはキリストの権限そして審判のための第二回目の降臨のことだとわかります。（イサヤ 2 : 12, 19 ; 1 テサロニケ 5 : 2, 3 ; 2 ペテロ 3 : 10）

エリヤについてのこの預言の 2 つのポイントに注目してみましよう：

1 父の心を子に向けさせる

2 子の心を父に向けさせる

この次の説明では、私たちはこの預言の一部が実現したということがわかるでしょう。

ルカ 1 : 17

「彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子供たちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」

これはもちろんバプテスマのヨハネについて言っています、ただし注目すべきことは、聖霊はマラキ書に書かれた預言者を2つに分け、そしてヨハネが第一部分を実現させたことを示しているという点です。その上、ヨハネは主の大いなる恐ろしい日の前ぶれをしていません。しかし彼はイエスが神様の羊飼いととしての地上の伝道事業の前ぶれをしました。

マタイ 17 : 10 - 12

「そこで、弟子たちは、イエスに尋ねて言った。『すると、律法学者たちが、まずエリヤが来るはずだと言っているのは、どうしてでしょうか。』イエスは答えて言われた。『エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず、彼に対して好き勝手なことをしたのです。人の子もまた、彼らから同じように苦しめられようとしています。』」

キリストはどのようにして前の聖書の言葉のつながりを維持しながら同じようにエリヤの伝道事業についての予言を分けたのかに注目してみましょう。イエス様はエリヤの伝道事業の一部分はすでに満たされましたが、残りの部分はまだこれから満たされることを指し示されました。彼はこの預言者が「すべてのことを立て直す」と示されることによってこの預言者の伝道事業のほかの側面を紹介されました。

2テサ 2 : 3

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからで

す。」

パウローは主の日は背教が起こるまで来ないと明言しました。「背教」はギリシャ語の「Apostasia」に由来し、信仰の放棄を意味します。もし読者がテサの2章を通して読み、特に12, 13そして15節に注目すると、パウロが、キリストの弟子たちが伝える神様の御言葉から離れてしまうことを警告しているのがよく分かります。この「神の御言葉からの離別」こそ、まさに紀元4世紀頃ローマカトリックが優位に立ち、聖書の権限を教会の権限に置き換え、キリスト教信仰を異教の信仰と結合させたときに起こったことだったので。

使徒 3 : 20 , 21

「それは、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためなのです。このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」

ペテロも、キリストが肉体の形で戻って来られる前に、まずは復元(改まる時)が来なくてはならないことを認めています。「復元 (restitution)」は「復興する (restore)」と同じギリシャ語の言葉に由来していて、「復興」の意味としても読み取れます。上記で紹介したマタイ 17 : 11 との相似点に着目してみましょう。両方とも「万物」の復興を指し示しています。ペテロもまたこれらが何であるのかを認識していて、このように言っています。「神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物」、これは神様のすべての御言葉の復興のことです。預言者たちを通して、他にはどんなことが語られたのでしょうか？ (ペテロの第2の手紙 1 : 21)

ここで、この聖書の一節の全体像をまとめて文字にしてみましょう：

- 1 . エリヤは万物を復興させる。(マタイによる福音書 17 : 11)
- 2 . キリストの第二回目の肉体的な降臨の前に、万物が復興されなくてはならない。(使徒の働き 3 : 21)
- 3 . 万物とは、預言者の口を通して語られる、神の御言葉のことを指す。(使徒の働き 3 : 21)

黙示録 10 : 7

「第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。」

この第七の御使いとは、神様が預言者たちに明かしてきた御自分の奥義を伝道する使者として、認識されています。この奥義とはキリストの奥義であるが、テモテへの第2の手紙 3 : 16によれば、キリストは神様が肉体として現れた形です。その神様のキリストにおける顕現というのは、初期のキリスト教会の預言者や使徒たちのメッセージの核心でした。したがってこの第七の御使いは、神様の御言葉もしくはロゴスを異邦人の教会に対してさらに強く主張されるのです。

読者は、異邦人たちの教会にとって、黙示録の最初の3章がどれほど重要かということに気づかなければなりません。そこには、かつて小アジアに存在していた七つの異邦人教会の状況や特徴について描写されています。ここで、この説教がヨハネ（黙示録を与えられた使徒ヨハネ）の時代にしか当てはまらないと思ひ込むのは間違っています。黙示録の初めの章では、その内容は「すぐにも起こるはずのこと」と表現されています。つまり、黙示録全体は予言であって、近い将来から始まり、異邦人の容赦、144,000人のユダヤ人への神様のお召し、キリスト統治の至福千年、白い玉座での審判、そして新エルサレムへまで予言が続くのである。

したがってこれらの七つの教会についても予言であり、これらの特徴は神様から異邦人に割り当てられた容赦のすべての時期を構成する七つの時代に対応します。エペソからラオデキアまで、それぞれの時代には、神様からのメッセージをもたらす天使がいました。「天使 (Angel)」という言葉は使者を意味していて、天の使者というだけでなく地上への使者をも意味していて、この使者を通して「御霊が諸教会に話しかけられる」のです。過去二千年の間に、神様は人々の信仰を守るために、パウロ、エイレナイオス、マーティン、コルンバ、ルター、そしてウェスレーといった偉大で信仰深い先導者を送られてきました。

黙示録 10:7の内容は、第七の御使い、つまりラオデキア時代の御使いの任務が、上記のような奥義を告げて知らせるといことだと説明しています。この最後の

使者は私たちの元へ到着すると、もう初期の時代の教会が脱離してしまった神の御言葉（万物についての）を告げ、携拳と主イエス・キリストの第二回目の降臨にまつわる奥義について明らかにすることでしょう。

あの頃の敬虔のパリサイ人のような霊を持たないように気をつけなさい。すなわち、神様の過去になさったことを信じているのに、神様がいま自分の目の前でなされていることを受け入れることができないことです。パリサイ人は自分たちは神様の御言葉を信じていると言いながら、神様が遣わされた彼らを罪の中からお救いになられるメサイアをなんと拒絶したのです！神様の預言者を拒絶するのは神様自身を拒絶することと同じなのです。（サムエル 8:7）使徒パウロの忠告を考えなさい、「しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。」（ガラテア 1:8）事実上、神様が一人の預言者を遣わされるのは、人々にこの預言者のメッセージを受け入れさせるためです。なぜなら、それが神様御自身の御言葉を御自分の民にもたらすのに選ばれた方法だからです（アモス 3:7）。

しかしながら、大部分の人はこの預言者兼使者を拒絶するでしょう。いつもそうです。多くの預言者は当時の多くの人に受け入れられませんでした（マタイ 5:11, 12 使徒 7:51, 52）。何百万人中、ノアの話を受け入れたのは七人だけでした；イスラエル人は絶えずモーゼに不平を言い、モーゼに反発しました；人々はサムエルを拒絶しました；エリヤは人々に憎まれ、自分が唯一残った神様を愛する人だとさえ思いました；人々は絶えずエレミアを笑いものにしました；イエス様は言われました、「...ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者.....」（マタイ 23:34-37）。

私たちはどうすれば世の中に大量に雪崩入る偽預言者の中から本物を見つけられるのでしょうか。一つだけ、神様は言われました、「あなたが心の中で、『私たちは、主が言われたのでないことばを、どうして見分けることができようか。』と言うような場合は、預言者が主の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは主が語られたことばではない。その預言者が不遜にもそれを語ったのである。彼を恐れてはならない。」（申命記 18:21, 22）したがって、本物の預言者を判明するのは容易なのです：彼が予言したことはすべて成就する、なぜなら神様

は間違えをされることはないからです。次に、聖書を調べると、主の預言者が予言を発する時に、「主はこう仰せられる」で始まることに気づくでしょう。なぜならそれはまさに主が預言者の口によって話されているからです。したがって、この世の終わりに来るエリヤは「主はこう仰せられる」を持っていて、しかも彼の予言や教義はいつまでも正しいのです。最後にこういう方法で考えてみてください：神様が一人のメサイアをこの世に遣わされるならば、人々にその方がモーセが話したあの預言者だと知らせるために、ある方法を選ばれる必要があります(申命記 18:15-19)。神様はどのようにして人々にイエスはその預言者兼メサイアだと証明されるのでしょうか。一つの方法はたくさんのしるしを行うことによることだが、この点だけでは証明できません。ヤンネとヤンプレもモーセと同様に超自然なことを行うことができるからです。しかし神様の預言者はある独特の証明を持っています、彼は神様の御言葉を人々に伝える人です：「というのは、神の言葉は生きており、……心の思いや考えを見分けることができるからです。」(ヘブル 4:12) あの預言者兼メサイアはどのようにしてナタナエルに自分の身分を証明されたのでしょうか。ナタナエルの心中の秘密を明かすことによってです(ヨハネ福音 1:45-50)。イエス様も同じようにペテロに自分の身分を証明されたのです(ヨハネ福音 1:40-42)。さらに、イエス様がどうやってヨハネ福音書の第四章で井戸のそばの女に自分こそがモーセが話したあの預言者だと証明されたのかを考えてみましょう：「女はイエスに言った。『先生。私が渴くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。』イエスは彼女に言われた。『行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。』女は答えて言った。『私には夫はありません。』イエスは言われた。『私には夫がないというのは、もっともです。あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。』女は言った。『先生。あなたは預言者だと思います……』」(ヨハネ福音書 4:15-19)。

ウィリアム・ブランナム兄弟

「神様から派遣された人」

ある歴史学者が言うには、ウィリアム・ブランナム (William Branham) 兄弟は「われわれの時代に遣わされた預言者」です。そしてあるペンテコステ派の歴史

学者は「ブランナム兄弟は世界のもっとも大きなスタジアムと会議場を満員にした」と書きました。「全福音の人の声」(今の「国際全福音ビジネスマン協会」)の1961年2月の記事にはこのように書かれています：「聖書の時代には、預言者や先見者である神の人がたくさんいました。しかしキリスト教の歴史の中で誰一人神様の預言者と先見者であるウィリアム・ブランナム兄弟より大きな伝道事業を行った者はおらず、彼の写真はこの『全福音の人の声』の表紙に載せられています。ブランナム兄弟は神様に使われ、イエス様の御名によって死んだ者をよみがえらせました。」1947年から、亡くなる1965年まで、ウィリアム・ブランナム兄弟の力強い伝道事業は良く知られており、そして福音大会の歴史の中では並ぶものがないと考えられていました。この方の超自然な伝道事業は北アメリカだけでなく、世界中でも反響を受けました。



この伝道事業は預言の実現なのか？

「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」(アモス 3:7)

神様が御自分の民に対応なさる方法としていつも、預言者を遣わされてきました。神様は預言の先駆者なしでは「何事も」なさない、と預言者アモスはわたしたちに教えました。このことは、聖書の歴史をさらりと学習しただけで実に正しいとわかります。人々に疑われ、拒絶され、そして迫害されずに神様の御言葉を伝えた預言者はほとんど誰もいませんでした！

これらの聖書の言葉を考えてみましょう：「見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

マラキ書の4章の5節と6節は2つの預言について話していて、その一部分はバプテスマのヨハネの伝道事業で実現したのでした。彼はイエス・キリストの第

一回目の到来に先立ちました。その時代は主の「大いなる」日と呼ばれ、バプテスマのヨハネは「律法」である父の心を新約聖書時代の「恩恵」である子に向けさせました。ジェイミーソンやフォセットとブラウンの聖書の解説に書かれているように、「...バプテスマのヨハネはエリヤの霊を持つが(ルカ1:16,17)文字通りのエリヤではない(ヨハネ1:21)」のです。このことはヨハネがマラキ書4:5は自分のことを指し示していることを知っていて、黙示によって自分がこの預言に含まれるすべての部分を完全には実現させていない=まだ実現させていない部分があるということを知っていたということを意味しています。この聖書の言葉の二つ目の預言を実現させる預言者がいて、キリストの第二回目の到来に先駆けて現れ、そして「子の心をその父に向けさせる」のである。

「主の恐ろしい日」、すなわちキリストの第二回目の到来の審判の前に、不信仰な世代の心を神様の御言葉へ、そしてわたしたちの「初期」の教会の父たちが持ったような信仰に立ち返らせるということを指すのです。

マタイの17:10-12もまた、2つの事柄について話しています。最初に、「すると、律法学者たちが、まずエリヤが来るはずだと言っているのは、どうしてでしょうか。」「...しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず...」のところは、バプテスマのヨハネのことを言っています。次に、「イエスは答えて言われた。『エリヤが来てすべてのことを立て直すのです。』」の部分、将来のキリストの第二回目の到来に先立つ先駆者のことを言っています。

ウィリアム・ブランハム兄弟の伝道事業には、彼が「惹きつけ(影響、引力)」と呼んだ3つの段階がありました。一番目の惹きつけは癒しです。二番目の惹きつけは預言です。三番目の惹きつけは神様の御言葉を開くこと、もしくは明らかにすることです。

イエス・キリストの伝道事業も同じように構成されていました。一番目の惹きつけ(影響、引力)は群衆が群がって彼の恵み深い言葉を聴き、触れることによって彼の奇跡的な癒しを受けたことです。二番目の惹きつけは心の中の秘密を明かすことです。三番目の惹きつけ(影響、引力)は彼の「メッセージ」、すなわち

神様の御言葉が力強く発せられ、そしてそれがあの時代の宗教秩序と衝突したので、群衆が彼から離れてしまったことです。「こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。(ヨハネ6:66)」

1963年 - 空に現れたしるし

1963年2月28日の日没の直前に、おどろくほど美しく、そして不思議な雲がアリゾナ州の上空に広がりました。その写真とその奇妙な出来事についての興味深い記事は、サイエンス雑誌(世界でもっとも権威がある科学雑誌の一つ、各大学などの図書館で借りることができます。)の1963年4月19日号とライフ雑誌(写真を中心に報道するアメリカの雑誌)の1963年5月17日号の両方に載せられました(サイエンス雑誌の方は表紙に掲載されました)。人々が関心を持った理由は、その巨大な雲が、水分がまったくなく、雲など出来るはずもない上空の非常に高い所で漂っていたからでした。その出来事について、科学的な説明は一度も得ることができませんでした。しかし世界には知らされていませんが、その雲が現れる2ヶ月前の1962年12月22日に、ブランハム兄弟はある幻を見ていました。彼はこの幻について、ジェファソンヴィルにある彼の教会の群衆に話をしていました。1963年2月28日にブランハム兄弟がアリゾナ州ツーソン周囲の山で狩りをしていた時、彼が幻で見た出来事が突然起きたのでした。小さい7つの点が彼の頭上の空に現れ、そして彼の目の前まで近付くと、七人の天使がピラミッドのような型を成して立っていました。この七人の天使がブランハム兄弟のもとから離れたとき、その不思議な雲を形成したのでした。

これらの事柄は一人の人間を持ち上げているのだと思っははいけません。キリストだけが持ち上げられるべきです。ブランハム兄弟自身は何もできないのです(ヨハネ福3:27)。それはイエス・キリストが一人の謙虚な預言者を通して、御自分が人となって私たちの間に住まれた時と同じようなお仕事をされたのです(ヘブル13:8)。だからその人を見上げるのではなく、彼がもたらしたメッセージを見るべきです。あのメッセージはいかなる宗派の教条や伝統の制限を受けることなくあなたを神様の純粋な御言葉に導くからです。使徒パウロはこう言いました、「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。」「(1コリント

11:1 4:16) あなたがパウロに従う時、あなたは一人の人間について行くのではなく、その人間を通して話されている聖霊について行くのです。「主はこう仰せられる」はブランナム兄弟やパウロやモーセ、もしくは他のいかなる神様の預言者の口を通して発せられた「主はこう仰せられる」…と同じです。

もしあなたがパウロの時代にいたならば、パウロが神様の預言者だと分かるのでしょうか。もしくはノア、エレミア、エリヤの時代にいたならば、彼らが神様の預言者だと分かるのでしょうか。もしあなたがパレスチナのもっとも荒涼とした地域にいて、イエスという人が偉大なしるしを行っていると感じた時に、あなたは彼が誰なのかが分かるのでしょうか。イエス様のしるしを悪魔の霊と呼んだパリサイ人がいたならば、あなたはどのようにするのでしょうか。彼らは神様の過去になされたことを信じていながら、神様が彼らの時代になされたことを受け入れることができませんでした。「忌むべきものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。」イエス様はこう叫ばれました、「あなたがたは預言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、『私たちが、先祖の時代に生きていたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかったらう。』」と言います。こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言しています。」(マタイ 23:29-31)

イエス様はなぜ来られたのでしょうか。彼はただ病を癒すことやしるしを行うことのために来られたのでしょうか。もし彼がそれらのことだけのために来られ、「誰でも私を信じるなら死なない」というメッセージをもたらされなかったならば、彼の到来は無駄なものなのです。なぜなら病気の人はまたいつかは病気にかかり、最後に希望がないまま死んでゆくからです。いいえ、キリストが超自然なしるしをなさしたのは、ただ彼がこの世に遣わされて、これから完成させる偉大な救いの仕事に人々の注意を引いていくためです。同じように、神様は病を癒すことや大きいしるしや不思議なことをなさるためにブランナム兄弟を遣わされたものではありません。神様が人々を第七の御使いのメッセージに導かれ、我々に「携拳される信徒」の信仰をもたらすために、人々の注意を引くのです。今日私たちは「パンと魚」のためにイエス様について行った人々を重視していません。あなたは神様が世の終わりに来る預言者エリヤを通してもたすメッセージを捜し求めるのに十分な理解力を持

っていますか。

しかしあなたは、「私は騙されたくない。」と言うかもしれません。それはいい考え方であるが、しかし聖書は一度も私たちに、騙されないために神様の御使いを無視するよう言ったことはありません。そうではなく、聖書は私たちにはっきりこう言いました、「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。……」(1ヨハネ 4:1)どのようにして霊をためすのでしょうか。キリストは御言葉であって(ヨハネ福 1:1,14)だから証明するための唯一の方法は神様の御言葉でもって第七の御使いがもたらしたメッセージを調べることです。もちろん、イエス様の教えがパリサイ人の神学と異なるのと同じように、それは宗派の神学と異なるかもしれません。しかしあなたは第七の御使いがもたらしたメッセージは聖書と完全に一致すると気づくでしょう。なぜなら、神様ご自身がキリストの第二回の到来を予告するためにブランナム兄弟をこの時代に遣わされたからです。最後に、最も良い忠告をしましょう、「彼はナタナエルを見つけて言った。『私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。』ナタナエルは彼に言った。『ナザレから何の良いものが出るだろう。』ピリポは言った。『来て、そして、見なさい。』」(ヨハネ福 1:45,46)

主・イエス・キリストに愛されている読者の皆様へ、

この文章の聖書の言葉は新改訳聖書から引用されたものです。

ウィリアム・ブランナム兄弟や彼のメッセージ、そして彼の伝道事業についてお問い合わせしたい場合は bridesinjapan@yahoo.co.jp までメールをください。また、他の日本語メッセージがあり、インターネットでダウンロードできます。

<http://www.biblebelievers.org/messagehub/ja/messages.do> ; 原作英語メッセージは

<http://www.biblebelievers.org/messagehub/en/messages.do> でご覧ください。